

令和6年度 第2回学校運営協議会(全日制部会)

【日時】 令和6年11月9日(土) 10:00～12:00

【出席者】※敬称略

運営協議委員：柴、宮崎、奥田、塩屋、大橋、若林(公務のため欠席)

本校事務局：井上、津田、笠原、岡田(公務のため欠席)、水野、田頭、網代、真野、寺田、登、後藤、山本、岩崎(公務のため欠席)、中河(公務のため欠席)、山口、佐藤

【次第】

1. 会長挨拶

- ・学力、授業について
- ・観点別評価への変更でこれまでとどのように変わるか

2. 校長挨拶

- ・現在の学校の様子
中間テスト・体育祭が終わり、懇談・文化部発表会期間中
- ・授業見学で学習意欲を高める改善箇所の発見

3. 確認 「教員の授業とその他の教育活動に関する意見書」について

- ・意見なし

4. 報告

○「授業アンケート」(令和6年7月実施)

- ・例年同じ項目・質問で教科別平均値を求めている
- ・平成30年度から右肩上がり数値が高かった昨年よりも上がっている
- ・自由記述はGoogleフォームを用いたことによって入力数が増加

○まとめ

- ・わかりやすい授業を意識
 - ・どのような力をつけてほしいかという目的、目標を伝えることが大切
- ・ペアワーク、グループワークの活用
 - ・何のためにしているのかを考え、効果的に行う
- ・ICTの使い方
 - ・チョーク・スライドの適切な色を職員間で共有
 - ・授業のスピード、話し方の工夫

○(質疑応答)

- Q. よい授業でもアンケートのポイントが低いというギャップはどのような授業で起こるか?
- A. 分かりにくい授業。例えば演習問題だけを説明・解説する授業はポイントが低くなる。

Q. しかし、自分で解く力を身につけることは必要ではないか？

- A
- ・学校は、グループワークで学びを深めるところで塾との差別化を図る。
 - ・直感的にわかるような面白い授業は評価が高いが、受験勉強など意識し、授業に演習などを組み込むと評価の点数が下がってしまう。
 - ・アンケート結果に一喜一憂しない。数字を上げることが目的にならないようにバランスが大切。
 - ・アンケートの数字がこれ以上あがるのは難しい。授業内容だけではなく、担当者へのリスペクトの部分で評価が上がる。
 - ・寝屋川高校の生命線は生徒との信頼関係で、普段の人間関係を大切にすることで信頼につながり、授業に影響していく。

5. 授業見学

6. 報告 学力向上委員会より

○学力向上目標達成シート (教科ごとの目標と10月までの進捗)

7. 協議

○授業見学に関する講評

- ・授業スピードが速いため、もう少しポイントを理解できるスピードで行うほうが良い。
- ・その授業で何を学ぶのかの「めあて」が明確な方が良い。
- ・黒板が見えづらい。
- ・スライドと黒板の両方を授業に取り入れていて良いが、タブレットも活用することで生徒の進捗状況が把握でき、授業の進むスピードをコントロールすることができるのではないか。
- ・机間指導などを行って生徒と関わることで、理解度の確認や生徒のフォロー、子どもの声がよく聞こえる授業を行うことができる。
- ・ペアワークを行う目的を再確認し、共有することが必要である。
- ・それぞれの関係性があると思うが、生徒の名前の呼び方が気になる。
- ・子どもが前向きに授業に取り組んでいた。

○観点別評価について

- ・これまで評価していたところを3つの観点に切り取って行うだけであり、今までの授業や評価方法を変えるわけではない。
- ・全教科の三観点、学習の評価基準を学校として生徒・保護者に向けたものにする。
- ・授業ごとに見る観点を絞りスケジューリングして生徒に伝えることで、目標が明確になり学習に取り組む態度が前向きになる。
- ・目標の立て方は「生徒が～できる」にするべきである。

6. その他

(1) 第3回日程(予定) 令和7年2月4日(火) 15:30～17:00